

行政視察報告書

議会運営委員会行政視察		令和元年10月10日(木)～11日(金)
視察先 及び 視察事項	・令和元年10月10日(木)	(1) 山口県 下関市議会
	山口県下関市議会	ア 議会改革について
		ア (ア) 市出資法人への市議会の関与
		ア (イ) 議会業務継続計画(BCP)
		ア (ウ) 市民と議会のつどい
		イ 議会施設について(議場・委員会室・会派控室など諸室及び電子表決システム等設備の視察含)
		イ (ア) 施設の計画、設計に当たっての市議会の関わり方(要望等)
		イ (イ) 施設整備の基本方針・設計方針
		イ (ウ) 各施設(諸室)の概要(面積・設備等内容)
	・令和元年10月11日(木)	(2) 広島県 呉市議会
		ア 議会報告会について
		ア (ア) 概要、課題及びその対応
		ア (イ) 常任委員会所管事務調査(テーマ)の報告と報告結果の活用
		イ 市議会だよりについて
		イ (ア) 概要
		イ (イ) 一般質問の掲載(紙面割合、留意点)
		イ (ウ) 配布状況(対象、方法、設置場所)
		イ (エ) 紙面内容に係る市民からの意見聴取(取組み状況、具体的な結果等)
		ウ 市議会の災害対応について
		ウ (ア) 災害発生時の対応要領
	ウ (イ) 平成30年7月豪雨災害への具体的な対応	
	エ 新庁舎建設に伴う議会施設の整備について(議場・委員会室・会派控室など諸室及び電子表決システム等設備の視察含)	

	(ア) 施設の計画、設計に当たっての市議会の関わり方（要望等）
	(イ) 施設整備の基本方針・設計方針
	(ウ) 各施設（諸室）の概要（面積・設備等内容）

山口県 下関市議会

市の概要)

「ふく」とクジラ、そしてペンギンのまち下関市は、三方海に囲まれ、北前船の寄港地としての歴史を持ち、源平の最後の合戦 壇ノ浦で有名。北九州小倉とは橋1つトンネル3本ですぐ目の前につながり、通勤通学者が多数利用している。

平成17年10月1日に中核市に移行、人口減少で、現在262000人。

7月1日に日本がIWC国際捕鯨委員会から脱退して、商業捕鯨再開、捕鯨母船が下関港に停泊する。

市鳥がなぜ「ペンギン」なのか、それは捕鯨船との関係と聞いて納得。

今後、商業ベースで成り立つかは、どれだけの需要があるかによるとのこと。

(地元では、フグといわず、「福」にかけて「フク」というとのこと。下関駅には、フクの提灯が所狭しと飾られていた。)

ア 議会改革について

(ア) 市出資法人への市議会の関与

公共施設の指定管理者などの法人の経営状況の調査を行うために、議会が毎年6月議会に会派から9名の議員を選出し調査特別委員会を設置、閉会中の審査を7月に3日間、8月に2日間行い、そして10月に委員長報告のまとめのための会議を開催して、12月議会の初日に報告するとのこと。

松本市をはじめほとんどの議会には、こうした特別委員会は設置されていません。

今後設置について検討に値するものだと思います。

(イ) 議会業務継続計画（BCP）について

BCPとは事業継続計画（Business Continuity Plan）のことで、民間では企業が、テロや災害、システム障害や不祥事といった危機的状況下に置かれた場合でも、重要な業務が継続できる方策を用意し、生き延びることができるようにしておくための戦略のことをさし、議会では、議会と議員が、災害時などのどのような活動をするかをあらかじめ計画策定するものです。

下関市でも、熊本地震を受けて初めて大規模災害発生時の議会としての対応を会派代表者会議で検討を開始、BCP調査特別委員会を設置して計画化してきた。

跡見学園女子大学教授の講演、神奈川県横浜市、横須賀市などを研修し、H30年6月から12月の6か月間、6回の開催で、計画案を策定し、12月議会で委員長報告を行い、最終日に議会基本条例を改正して、議長決裁により「業務継続計画」を規定した。

市議会災害対策会議を設置し、目的、役割など議員の行動などを規定した。

作った方がいいが、実際に機能せずに今日まで来ており、今年の8月の終わりに大雨があり、市は災害対策本部を立ちあげたが、議会は議長判断で、立ちあげなかった経過がある。

災害時、議員から直接市の災害対策本部と個別に情報伝達交換をすると混乱するので、議会と市の本部との窓口の一本化が必要とのこと。

松本市議会は、平成24年3月22日に松本市議会災害対策本部設置規程を策定し、「できる規定」で、災害対策本部設置規定があるが、実際に設置したことはない。

(ウ) 市民と議会のつどい

H24年、基本条例に基づき市民に開かれた、市民参加の議会の議会をめざし、いわゆる「スクール形式」で、説明と意見交換全体で90分間開催している。

市民からの意見・要望に関しては、その場で説明できるものは済ませ、残りは執行部に伝えるようにしている。

会津若松市のように、その時の内容をベースに、政策提言等までは至っていない。

関係団体と実施、大学などでの開催、H28年には、平成28年7月13日には市立下関商業高等学校にて「下関市議会1n下商」を開催、この時は3年生全員で198人が参加した。

どこも、松本市同様悩みは参加者が減少傾向にあること。

周知方法は、800を超える自治会があるので、自治会長にチラシ3枚ほど送付し、回覧などをお願いしている。

議会運営委員が9名いるので、公民館、支所など公共施設にチラシ置き、ポスターを貼りだしてもらうようにお願いに回る。各議員には、チラシを20枚程度渡し、活用してもらう。

平成30年は従来の方法から、施行的に、各常任委員会で開催する方法に変更し、内容を「委員会の活動方針」に即した各種団体との意見交換とすることとした。4常任会があるが、9人から33人の参加で、合わせて、81人参加。

イ 議会施設について

「わかりやすく、市民に開かれた議会を目指す」をコンセプトに、本会議傍聴は、傍聴券交付受付を経て名札をもらって誰でも自由にできます。70席のほか、幼児のためのキッズルームは、防音された部屋に親子とも議場を見下ろせる場所に設置されていた。委員会傍聴は、8席あります。

本会議場は、関門海峡をイメージした鮮やかなブルーを基調とした絨毯の床は、まさに海中に沈み込むような感じで、最初は足元に注意しながらの慎重な歩を進める程、正直戸惑いを感じる空間です。

非常に気になったのは傍聴席につながる背面の壁。

まさに見上げ程高く、思った通り傍聴席からは、その椅子を立ち上がっても議員の姿は、最前列の議員でもほとんど見えず、傍聴席最前列の記者席から議場を覗き込むと、まさに最後列の議員の席を真上から見下ろす感じで、これでは議員の手元の資料はもちろん、開いているノートの中身を上からのぞけるようなポジションだった。

関係者は、完成するまで気が付かなかったとのことだが、空調機械があるので低くできないとのこと。

議場内に設置されていた4つのディスプレイは、少し小さく、十分に内容が確認できるのか心配な大きさだ。

新しい議場をどうするか、松本市は新庁舎建設に当たりじっくり今から十分慎重に検討を加えることが必要と実感した。

独立した議会棟でなくても、まさに「開かれた議会」スペースの設計が重要だ。

廊下に出ると、議会フロアー廊下からは、関門海峡越しにすぐそこに北九州市を手取るように確認できる実に見事な眺望でした。

下関市では、新庁舎建設に関しては、現地再建、他の場所に移転など、何度かの市長選挙を経て、現地新築を行って、現在最後の建物の建築を行っています。平成26年2月議会から新しく建設された議会棟（建物の7、8、9階）で、議事が行われています。

広島県 呉市議会

市の概要)

ものづくり、造船の町呉市。自衛隊と共存共栄の町、戦艦大和建造の際、全国から優秀な人材が集まった都市。

平成28年4月、全国で46番目（長崎県佐世保市と同時）の中核市「呉」が誕生しました。

みかん、レモンの産地、牡蠣の養殖は、一昨年まで全国1位だったが、江田島市に抜かれ、現在は2位。

高齢化率が、下関、函館に続き、現在全国3位である。

ア 議会報告会について

(イ) 常任委員会所管事務調査（テーマ）の報告と報告結果の活用

H22年から議会基本条例実行委員会主催で開催。議会内政策研究会が、企画立案など行い、報告90分討論45分で報告会を実施。

支所16か所を会場に、4つの常任委員会ごとに行ってきた。

H23年 共通のテーマとして「新庁舎の建設」としたところ、800人超集まった。

常任委員会所管事務調査(テーマ)の報告を行い、必要に応じてテーマに関係する各団体に出向き、そこでの内容を提言に生かすとのこと。

H28年度は、初めて高校生との意見交換会を行う。

翌H29年度は、5校に増やし開催。

H30年度は、常任委員会毎4か所、学校は7校に拡大する。

今後の課題・改善点としては、報告時間を短くし 意見表明時間を長くすることを検討中。 人数が減る中でスクール形式化から車座に替える。

常任会は任期2年間（委員長任期も2年、ちなみに、議長は2年、副議長1年、監査は1年、委員長は2年）

所管事務調査（テーマ）に関しては、2年間で結論を出し、中間で、委員長が報告する。

最終的に市長に対して行う提言は、委員会で討議して決め、松本市のように議員全員参加の政策討論会を行わず、委員会の決定が議会の総意として扱われる。

委員会の結論＝議会の「総意」となると困らないかの立場から、「委員会の中での全会一致は、必要条件なのか」と質問したところ、これまでまともになかった例はない。（「いつも反対者は1人ぐらだから」とのこと。

「全会一致を旨とする」とはなっていない。少数意見を提言の中に入れるので、それでまとめているとのこと。

果たして、それでいいのか疑問は残る。

イ 市議会だよりについて

H29年4月から発行 H28年4月から中核市になったので発行を始める。

（A4 12 ページ 4色カラー それまで中核市の中で発行していなかったのは、呉を含めて3市くらいだった。）

今年度 コンクールで最優秀賞を受賞。

会派から参加する広報委員会で作成するが、「読んでみたくなるような」をコンセプトに広報誌担当の職員がデザインしている。

議会からは、この表紙にはじめ抵抗があったが、他都市（あきるの）などを参考にしている編集デザインは、確かに、読みたくなる内容だ。

回数4回 各93000部 配布料も含め年間900万円の予算。

（ちなみに、松本市は、年4回を基本に 89000部）

松本市も、大胆な編集を考えてもいいと感じる。

ウ 市議会の災害対応について（BCP）

H28年2月14日 「呉市議会における災害発生時の対応要領」を作成

そこには議長の判断で、必要とした場合「災害対策連絡会議」（議長、副議長、各会派代表者及び会派に所属しない議員の代表者で構成）を設置することになっているが、これまで設置されたことは一度もない。

先の平成30年7月豪雨災害の場合も設置しなかった。

実際には、議会運営委員会で対応を扱う。

救援活動では、協力するが勝手な活動は行わないことを申し合わせ、議会側の窓口の1本化を図り、安否確認・情報交換はすべてタブレットで行った。

市は災害対策本部を設置、そこに議会事務局長が参加した。

協議会を開かなくて対応できた。

574件の情報が寄せられ、タブレットを使ったので24時間対応できた。

(もしFAXならば、1万枚を超える量となったであろうとのこと。)

避難所での議員の立ち位置も決まっておらず、基本条例の検証を今後の議会で行うことを確認。

エ 新庁舎建設に伴う議会施設の整備について

H25年一度入札不調があったが、H28年2月より新庁舎に移行

老朽化(S35年建設)を受け、H9年から話があったが、H11年、財政難でいったん留保、「財政改革宣言」を行い一定のめどが立ててから、H23年から再始動。

H23年9月から特別委員会設置、議会で議論を行う。

議会としてのかかわり方は、事前に「代表者会議」で要望事項など出し合い要望、その後、基本設計が出された時点で、特別委員会を設置し議論するという手法をとってきた。

施設概要：

3F4Fが議会棟 議長室45㎡ 副議長室37㎡ 本会議場 325㎡ 委員会室 37㎡
(1委員会/日なので、1つでOK。これは、全体の大きさにも影響する！)

傍聴席には、親子席あり。議場は階段式で、傍聴席との間は、上の一部をガラスで低く仕切っている。

電子採決システムあり。

新庁舎に関しては、今後も基本設計がされるまで、他市の庁舎を機会あるごとに視察することが大事だ。

令和元年12月2日

松本市議会議長 村上幸雄様

議会運営委員 池田国昭